

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.9.5 No.144 連絡先 FAX 042-555-1911



## 「撤去の会」が第5回総会 「オスプレイと日米安保」竹下岳氏が講演

8月25日(土)、羽村市の「ゆとろぎ」講座室1で、横田基地の撤去を求める西多摩の会第5回総会が開催されました。

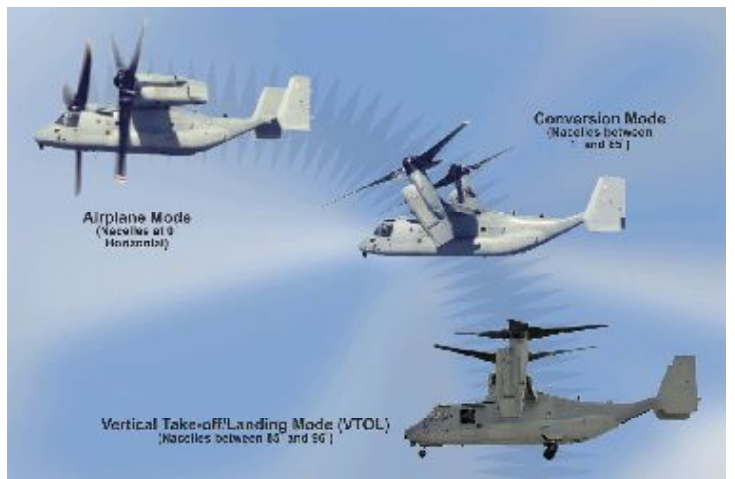
会場は参加者でいっぱい、横田基地撤去や、オスプレイ配備撤回に向けて、今後の活動の広がり期待されました。

第一部で、竹下岳・赤旗政治部記者の「オスプレイと日米安保」と題した講演が行われました。レジュメを一部紹介すると



1 オスプレイとは: 「MV22 は中型航空能力を提供し、ヘリコプターのような垂直離着陸機能力と固定翼航空機のような水平飛行能力を有する」

2 なぜ、沖縄に配備されるのか: 「世界中における戦闘、戦闘支援、戦闘役務支援、特殊作戦、人道/災害救援任務」、「2025年までに米海兵隊の航空部隊は、『考えられうる最も苛酷な状況下でも交戦能力を有し、不確実な将来の戦闘作戦への即応性を有した迅速で決定的な遠征部隊』になる」、「沖縄へのMV22中隊の配備は、これらの全般目標を達成するための一歩となる」等、環境レビューの文言や写真を使って、オスプレイの危険性、配備は何のためか説明。



真左から航空機モード、転換モード、垂直離着陸モード

さらに、全国で配備反対の声が広がっていること、本来は航空法上、飛行禁止なのに日米地位協定で適用除外にしている、米軍の特権の根源に安保があることを訴えていく、米国では機体の欠陥を問う声が相次ぎ、低空飛行訓練の無期限延期(米本土)や訓練中止(ハワイ)があることなど語りました。強襲揚陸艦に搭載するためプロペラが短く欠陥機に、との話も。

## 揚陸艦上で運用のため 回転翼小さくした 自動回転能力が欠如した



エンジン停止時に安全に着陸できるオートローテーション(自動回転)能力がオスプレイに欠如しているのは、同機を艦船上で運用する必要から回転翼を小さくしたためだということが米政府文書で判明しました。

2000年にオスプレイの墜落事故が相次いだのを受けて米国防長官が設置した「V-22プログラム再検討委員会」の報告書(2001年4月)で、オスプレイのオートローテーションについて「着陸に成功する可能性は非常に低い」と専門家が指摘していました。「環境レビュー」はオスプレイを強襲揚陸艦など艦船への収納、離着陸などの運用が可能だとして「戦闘部隊を艦船から直接、作戦目標へ迅速に展開」でき、「配備先は事実上無制限だ」と誇っています。安全より、地球規模での出撃を優先した結果欠陥機が作られました。(写真:佐世保を母港とする強襲揚陸艦ボノム・リシャール 米軍HPより)

## 横田基地のC-130などが 関東平野エリアを有視界訓練飛行 (No. 144 の裏面)

米空軍横田基地所属の輸送機が関東平野で低空飛行訓練を実施している問題で、日本共産党の塩川鉄也衆院議員は8月24日、防衛省に関係住民に情報提供するよう求めました。

関東平野と周辺は、横田、厚木、入間など米軍や自衛隊の飛行場が多く、民間の小型機が使用する飛行場なども十数カ所に及び、低高度を飛行する米軍、自衛隊の輸送機やヘリコプター、民間の小型機・ヘリの飛行が錯綜（さくそう）しています。

横田基地では、米空軍第374輸送航空団が、日本の民間小型機所有者やパイロットと過去3回（2010年1月、3月、2011年9月）、「関東平野空中衝突防止会議」を開催しています。

米軍は、所属するC-130輸送機が、西は南アルプス周辺、東は茨城県上空、南は伊豆半島、北は群馬、栃木県上空までの広い範囲を低高度（地上からで約150～1500メートル）の編隊による有視界飛行訓練の空域としていることを明らかにしていました。このことは、日本航空機操縦士協会発行の機関誌『PILOT』2010年5月号の「関東平野空中衝突防止会議」（奥貫博氏）に掲載された「関東平野エリアでの有視界訓練飛行活動」にも紹介されています。（右図）

防衛省担当者は、民間の小型機が多数横田基地に飛来した第2、3回の会議については基地周辺にも影響があるとして、関係自治体に情報提供したが、米軍からの空域の説明など、会議の内容については「承知していない」と答えました。塩川議員は、米軍が会議で示した空域の資料の提出を改めて求め「頭の上を米軍機が飛んでいるのに住民には何も知らされていない。小型機のパイロットに周知したものと同じものを住民にもきちんと提供すべきだ」と求めました。（塩川議員ブログを参照）



### 関東平野空中衝突防止会議での 横田基地からのメッセージ（要約）

「関東平野空中衝突防止会議」（奥貫博氏）の情報が、上記『PILOT』誌に掲載されています。その中から、横田基地からのメッセージを抜粋・要約してお知らせします。

「横田基地周辺では、年間で15,000機以上の米軍機が往来しています。基地は西側の高さ3,000m級の連峰と東京湾の間の密集した首都圏の住宅地に位置し、年間を通じて激しい山岳波、極度の低雲高や悪天候による視界不良が発生しやすい傾向があります。

また、東京近郊上空は、成田、羽田空港に離着陸する航空機の過密化した民間航空路により飽和状態になっています。横田基地にはエアロクラブ所有の民間仕様の小型セスナ機のほかに、軍用機のC-130、C-12、UH-1ヘリコプター等が駐機しています。さらに…支援しています。」

「関東地域ではこのような低高度の飛行が行われているため、空中衝突の防止には十分な注意が必要です。」「航空機同士の衝突の可能性が高い空域の情報を共有し、横田周辺空域の飛行に係わる危険性の存在を認識し、事故を回避することが必要です。」

### ◇ドキュメンタリー 標的の村～国に訴えられた沖縄・高江の住民たち

<http://www.youtube.com/watch?v=Y9jp6XovV0>

ぜひ、こちらをご覧ください